

お國の戀日記

帝キネ現代映畫

原作脚色者

監督者

撮影者

松平昌之
大森勝
鍋本榮一 郎

主割役割

國子 高津愛子
俊吉 川田修
京子 千草香子
尾形徳二郎 賀川清
北川民之助 藤間太郎
真子 松葉笑子

略筋——都會に刺戟を求める國子は、今父の死に逢ひ乍らも、當分獨身生活をしたい、と母や純なる俊吉の愛を斥けて都會へ歸つて行つた。彼女が尾形徳二郎といふ戀人さ甘い戀に酔つてゐたのだが、尾形は彼女を裏切つて女給京子の許へ走つた。迷夢から醒めた彼女は悲しみの餘り町を彷徨ふ内、自動車に觸れて傷を負つた。

解説——大森勝氏の「踊る奥様」に次ぐ作品である。

寫眞
「お國の戀日記」帝キネ、大森勝作品。
右より高津愛子、松葉笑子。



北川民之助の温情に救はれた國子に幸福な一年が過ぎて、今では愛の結晶久美子まゝ得た。そこへ惜むべき尾形が、民之助の妹良子の求婚者として現れたことに依り彼女の前途は暗くなつた。彼女の纏ての幸福を犠牲にしても良子をその冤手から救はうとした。紳士の假面を装ふ悪魔尾形は女給京子の呪ひのピストルに仆れ乍らも國子の過去を口走つた。民之助の信を裏切つて國子は、久美子を連れ、たゞ母として生くべく故郷に歸つて行つた。